

令和元年度 学校自己、及び、学校関係者評価表 1 武蔵村山市立第八小学校		経営理念		人間力を高め、夢と希望を育み、笑顔あふれる学校		【学校運営協議会・会長】 学校運営協議会（学校評価分）第1回 4月18日（木） 第2回 6月13日（木） 第3回 9月19日（木）		様式4		
経営理念	経営目標 （中期・短期を明記）	目標達成のための方策	評価指標	自己評価		分析コメント(学校関係者評価委員会の意見、児童・生徒評価、保護者評価等の意見について、参考にする。)	改善策(来年度の目標設定、具体的な取組目標)	学校関係者評価		
				9月 目標値	12月 達成値			最終評価	意見	評価点 (4点満点)
確かな学力の向上	◆(中期) 学習意欲、思考力・判断力・表現力の向上 ◆(中期) 知識・技能の確実な定着	◇授業改善推進プランに基づき、「学習意欲、思考力・判断力・表現力」の向上と「知識・技能」の定着を図る。 ◇東京ベシック・ドリルの内容の、7割以上の定着を図る。	○(保護者アンケート)肯定的評価の割合 ○第5学年都調査と類似問題の結果の比較 ○ベシック・ドリル診断テストの結果	80	83	A	・学力の定着に向け、日々指導の改善に取り組んでいる。 ・テストでは既習事項の定着がみられる。 △一方で継続した定着については不足している。(東京ベシック・ドリルの結果より)	・八小スタンダード(課題解決型授業)の授業の更なる定着を図る。 ・ベシックドリルの活用は今後も継続する。 ・児童にとっての苦手意識をなくしていき、意欲を高められるように学習補充を行っていく。 ・宿題の量を増やす。 ・ノートの活用を図る。 ・八小なるほど塾及び八小練成塾を奨励する。	「なるほど塾」「夏の八小塾」などの〇付けなどの協力には、地域の方で編成される「お手伝いクラブ」のメンバーも加わり協力。人数もほぼ充足できていると考える。楽しい雰囲気での学習。今年度は武蔵村山高校の生徒さんにもお手伝いいただいた。これらの学習機会での児童の効果について確認したい。	4
	◆(中期) 地域との連携	◇「繰り上がり」「繰り下がり」の徹底を図る。(基礎学力の定着) ◇「かけ算九九」(基礎学力の定着)…11月、3学期末 ◇「八小なるほど塾」(基礎学力の定着)…2学期に実施「詩の暗誦」(基礎学力の定着)	○「ふれあひ月間」の結果 ○(自己評価)肯定的評価の割合 ○(保護者アンケート)肯定的評価の割合	80	87	A	・八小なるほど塾や、夏の八小塾、低学年の基礎計算の取り組みを継続して行っている。 ・コミュニティの方と連携して取り組んでいる。	・丸付けの方の人数を増やすために通知を複数回出した。り、連絡メールで手伝いを募集したりする。 ・年度当初に計画的な募集を行い、今年度同様に予算を適切に執行できるようにする。		4
豊かな心の育成	◆(中期) いじめ撲滅への取組	◇週1回の生活指導夕会に合わせて、学年内で、いじめ認知の確認と、報告・協議を行う。 ◇月1回開催する「特別支援校内委員会兼いじめ防止対策委員会」で、いじめ認知の確認と、報告・協議を行う。	○(自己評価)肯定的評価の割合 ○(保護者アンケート)肯定的評価の割合	80	103	A	・学年間で報告・連絡・相談を行い、情報共有をしている。 ・生活指導夕会や人材育成部会などで、学校全体で情報共有をしている。	・德育授業の実践や生活指導を通じた指導を今後も継続していく。 週1回の生活指導夕会や月1回行う特別支援校内委員会兼いじめ防止対策委員会、人災育成部会で情報共有する。 ・学年専科会において児童の様子について共通理解を図ると共に、学年主任を中心として統一した生活指導を行う。	協議会では「児童の安心・安全を考える」をテーマにこの活動のより具体化させたい。	4
	◆(中期) 特別支援を要する児童への対応	◇特別支援コーディネーターを中心に学校(担任、学年主任、生活指導主任、養護教諭、SC、特支専門員、等)と保護者、外部機関(教育相談、医療、等)で適切な支援の共通理解を図る。 ◇月1回開催する「特別支援校内委員会兼いじめ防止対策委員会」で、該当児童への支援の確認と協議を行う。	○(自己評価)肯定的評価の割合	80	98	A	・担任、養護教諭、特別支援専門員、スクールカウンセラー、巡回相談の先生と連携し、保護者面談等を行った。 ・特別支援校内委員会で、支援の必要な児童についての情報共有を行った。	・特別支援コーディネーターを中心に学校(担任、学年主任、生活指導主任、養護教諭、SC、特支専門員)と保護者、外部機関で適切な支援の共通理解を図る。 ・特別支援校内委員会兼いじめ防止対策委員会、該当児童への支援の共通理解を図る。 ・個別の支援計画を作成し、中学校に引き継げるようにする。 ・保護者への連絡が難しいが、こまめに連絡を入れていく。		4
	◆(中期) 思いやりの心をもち、明るい挨拶や会釈のできる子供の育成	◇「挨拶の励行」を推進する。(随時) ◇【德育科】指導法、評価方法、指導資料の開発を柱に、豊かな心の育成を図る。	○(自己評価)児童の行動についての肯定的評価の割合 ○(児童アンケート)肯定的評価の割合 ○(保護者アンケート)肯定的評価の割合	80	91	A	・德育科の授業などで挨拶について指導をしている。 ・挨拶をすすめる児童は増えている。 ・代表委員会や中校区の挨拶運動を進めている。 △挨拶を返さない児童もいる。	・德育科の授業を通して、道徳的価値理解の理解を図り、道徳の実践や道徳の習慣につなげる。 ・委員長会議や中校区の挨拶運動などを活用し、挨拶に対する意識の向上と実践力を高める。	德育科推進モデル校としての役割を果たしている。「挨拶運動」も浸透している。挨拶は、「相手の顔を見て、また、された方も「挨拶返し」が重要であり、我々も気をつけた。	
	◆(短期) 話を一度で聞き取る子供の育成	◇「教室の中で話しているのは一人」の「教室」を、全校朝会、児童集会、学年集会、等の場に拡大し、推進する。	○(自己評価)肯定的評価の割合	80	90	A	・「めだか(聞く態度)」を全学級で統一して掲示するなど、各学級で指導している。 ・黙って聞くことのできる児童が多い。 △聞いてはいるが、内容が理解できていない(と思われる)児童も多い。	・静粛に全校朝会、児童集会を行える意識と行動力を学級や学年で実践できるように指導を徹底する。 ・話を聞いていても内容を理解できていない児童が見られるため話す・聞く学習の充実を図る。		4
健やかな体の育成	◆(短期) 「早寝、早起き、朝ご飯、歯磨き」の徹底	◇2学期、3学期に実施する生活リズムカードにより意識付けを図る。 ◇各学年の目標値を明確にし、8割以上の定着を図る。	○生活リズムの集計結果 ○(児童アンケート)肯定的評価の割合 ○(保護者アンケート)肯定的評価の割合	80	91	A	・生活リズムカードの取り組みによって、生活を見直せるよう、各学級で指導した。 △生活リズムカードの回収率が悪い。	・目標値を明確化する。 ・通信や連絡メールなどで生活リズムチェックへの取組みへの理解と協力をいただけるようにする。	地域の方々で構成する「お手伝いクラブ」のメンバーによる活動の中に「安全確保」「体力増進」も含まれており、学校側の期待に応えられていると思う。更に充実させたい。 また、全教員も加えての協議会を年1回行っており、協議会の活動に対する要望などを提案いただいた活動に反映させている。	4
	◆(中期) 運動好きの児童の育成	◇ハッピーチューズデイを活用した外遊びの奨励、市内サッカー、ドッジボール大会参加などへ積極的な募集、なわとび集会、持久走週間、学級全員遊びの機会を充実させる。 ◇OJT夕会で体育指導を扱い、体育授業の充実を図る。	○新体力テストの結果 ○(児童アンケート)肯定的評価の割合	80	94	A	・児童は、全員外遊びのルールを守っている。 ・OJT夕会でその内容を生かして縄跳び指導を行ったことで休み時間に縄跳びをする児童が増えた。 ・特別支援教室でも体幹を鍛える内容を展開している。	・校内の決まりとして全員外遊びを継続する。 ・OJT夕会では、様々な種類の運動をテーマとする。 ・新体力テストの結果を反映させた取組が必要である。		4
防災意識	◆(中期) 災害や犯罪に対応する取組	◇年間計画に基づいて、実際に近い想定で確実に実施する。(火災、地震、不審者侵入、引き取り、集団下校、暴風雨、セーフティ教室、自転車教室、交通安全教室)	○(児童アンケート)肯定的評価の割合 ○(保護者アンケート)肯定的評価の割合	80	101	A	・児童は真剣な態度で取組んでいて、児童評価も高かった。 ・避難訓練の目的を明確に伝え、意識を高くもたせて取り組めた。	・より災害が起ったときと同じような環境にするため「予告なし」の避難訓練を年4回設ける。 ・児童も自転車保険に加入する必要性が出てきたため自転車に係る安全指導に重点を置く。		4
教師としての質の向上	◆(中期) 「思考力・判断力・表現力」の育成を目指し、問題解決型の学習過程を身に付けること	◇全教員が「八小授業スタンダード」に基づいた授業を1週間に5回以上行う。 ◇全教員が「一人一研究」に基づいた研究授業を年2回以上行う。	○(自己評価)授業後の肯定的評価の割合	80	88	A	・校内研と併せて授業作りをしたので意識は高まったと思う。 ・意識はしているが、児童が考えつらそうな授業になってしまうことがある。 ・問題解決型の授業を専科では充分に取り組めなかった。	・思考力、判断力、表現力を育成するのに八小スタンダードを継続する。 ・単元を通して八小スタンダードが活用できる学習内容を中執しておく必要がある。	若い教員が多いが、児童は「お兄さん」「お姉さん」と親近感をもって、明るい雰囲気があるのは好ましく感じる。	4
	◆(中期) 児童の健全育成、安全対策を推進するために、地域・家庭との連携を深めること	◇教員それぞれが、年間6回程度PTA活動や地域行事へ参加する。 ◇学級からの配布物、電話、面談、家庭訪問などの手段を用いて、適宜保護者と連絡を取る。	○(自己評価)肯定的評価の割合 ○(保護者アンケート)肯定的評価の割合	80	80	76	A	・PTA活動に参加することで、地域の実態を知ることができた。 ・家庭の都合で地域の行事にはなかなか参加できなかった。 ・電話や連絡帳、情報共有ファイルなどで保護者と適宜連携を図ることができた。	・学校・学年・学級の通信や連絡メール、ホームページなどで学校での様子を随時伝えるようにする。 ・地域訪問を早期に確実に実施できるように、訪問の期間を長く設定する。	
【達成度】 = 【達成値】 / 【目標値】 【評価】 A：8割以上→目標達成とみなし新たな目標設定 B：8割未満5割以上→8割を超えるまで継続実施 C：5割未満→目標の見直し									平均値	4